



能 翁 (観世流)

翁 千歳
三番叟
面箱持

笛
小鼓
脇鼓
大鼓
後見
狂言後見

吉沢 旭
八神 孝充
本田 勲
須部 甫

狂言 二本柱 (和泉流)

シテ (奥能者)
アト (太郎冠者)
アト (次郎冠者)
アト (三郎冠者)

小鼓
大鼓
太鼓
後見

能 高砂 (観世流)

前シテ 木守りの老人
後シテ 住吉明神
ツレ 木守りの姥
ワキ 旅の神職
ワキシテ 同行の神職
フキシテ 同行の神職
アト 浦人

吉沢 旭
八神 孝充
本田 勲
須部 甫

笛
小鼓
大鼓
太鼓
後見

後藤嘉津幸
河村眞之介
加藤洋輝
武田邦久
梅田邦久
高橋瞭一
祖父江修一
武田邦弘
梅田嘉宏

〔午後四時十分頃 終了予定〕
「イヤホンガイド」
英語 日本語 / 藤江さおり (通訳ガイド)
英語 日本語 / 伊藤利香 (名古屋能楽堂イヤホンガイド)
英語 日本語 / 藤江さおり (通訳ガイド)

◇能解説「翁」(おきな)

新春、切火で清められた清新な舞台(切火は幕際から火打石で火を飛ばすことに、潔斎をすませた演者が、面箱持、翁、千歳、三番叟...と続いて全員が登場する。翁は狩衣・指貫、面箱持、三番叟、千歳は侍烏帽子に直垂。囃子、地謡などは侍烏帽子に素襦を着る。「翁」の舞は三郎から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水...」と謡い出し、若々しく飄爽とした舞。次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。この中で角、脇座前、舞台の中央で、それぞれ三回ずつ拍子と踏む。それを「天地・人の拍子」と称する。翁の退場のあと、三番叟の賑やかな舞がはじまる。はじめの部分を「採之段」と称し、黒式射の面を持つ拍子持の後半部の舞を「鈴之段」と称する。天下泰平、国土安穩、五穀豊穡を祈る儀式である。新年の翁、それはさわやかな日本の新春。

◇能解説「高砂」(たかさご)

能といえは高砂といわれる代表作。阿蘇の宮の神主、友成(ワキ)が都へ上る途次、播州高砂の浦に立ち寄る。熊手と杉箒を持った尉(前シテ)と姥(ツレ)が高砂の松のもとを清めている。この老夫婦は、尉が津の国住吉の者で、姥は高砂の人であった。夫婦は、高砂と住吉の松が自出度く、また相生と言われていることや、和歌の徳(ひいては文学の力)について説き、そのうち夫婦は、われらは高砂・住吉の相生の松の精であって、住吉へ行つてあれに待ち申そうと友成に告げ、舟にうち乗って沖へ出て行く。「中入」(尉は住吉明神の化身とも見るべきである)。友成が住吉に来ると住吉明神(後シテ)が出現し、さわやかにして迫力を持った舞によって御代を祝福する。世阿弥の作であることが確認されている。能が江戸幕府の式楽であったとき「高砂」は特に重要な能として存在した。又現代でも種々な形で祝賀の催しや、結婚式で用いられる。それらの典拠となる「三」の部分抽出してみよう。(最初の地謡の二節)四海波静かにて、国も治まる時つ風、枝を鳴らさぬ御代なれや。あひに相生の松こそめでたかりけれ、げにや仰ぎても、事もおろかやかかる代に、住める民とて豊かなる、君の恵みぞありがたき。(クセの一節)高砂の尾上の鐘の音すなり。咲かけて霜は置けども松が枝の、葉色は同じ深緑、立ち寄る薩の朝夕に、かけども落葉の尽きせぬは、真なり松の葉の、散り失せずして、色はなほまさきの葛ながき世の喻へなりける常磐木の、中にも名は高砂の末代の例にも相生の松ぞめでたき。(ワキの持謡)高砂や、この浦舟に帆をあげて、月もろともに出汐の、波の淡路の鳥影や、遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住の江に着きにけり。(最後の文)千秋楽は民を撫で、萬歳業には命を延ぶ、相生の松風調々の声ぞ楽しむ。(泉 嘉志)

◇狂言解説「二本柱」(ざんぼんのはしら)

果報者は三人の召使いを呼出し、普請(自宅の新築のためあらかじめ用意しておいた木を、山から運んで下ろすよう命じます。ただしそれには条件があって、「二本」の柱を、三人の者が、二本ずつ持つて戻るといふ事です。山に到着した召使い達は、この難問を試行錯誤しながら解いていき...

狂言では召使い(太郎冠者など)が登場する場合、任務が失敗に終わる演目が多いのですが、本曲では召使いの数学的知識や任務遂行の実直さなど、主にに対する忠誠心が伺えます。また新築を扱った目出度い演出ゆえ、舞台披露(掃落し)などに起用される事も多く、名古屋能楽堂の開館や本丸御殿起工式典でも上演されています。(井上菊次郎)

チケット料金(税込み)

	指定 Reserved	自由 Non reserved	
		一般 Adult	学生 Student
前売 Advance sale	5,000円	4,000円	2,000円

*自由席のみ当日500円増 *学生券は25歳以下を対象とします。
*事業団友の会 会員は1割引
(名古屋能楽堂・名古屋市文化振興事業団チケットガイド・事業団施設窓口の前売のみ)
*上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外はご遠慮下さい。*未就学児のご入場はお断りいたします。

前売券取扱所 Ticket Office
名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
*文化小劇場等、事業団が管理する文化施設窓口(東山荘除く)でもお買い求めいただけます。
中京テレビ事業/TEL.052-957-3333
栄プレチケ92/TEL.052-953-0777
チケットびあ/TEL.0570-02-9999 (Pコード 432-852)
*お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。

●イヤホンガイド Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset(Japanese/English) 演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸しします。(日本語/英語)
●併設の「御食事処 城」(184席/052-222-6699)がご利用いただけます。

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088 FAX.052-231-8756 http://www.bunka758.or.jp



ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい
「友の会」会員募集中!
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 TEL.052-249-9385